



2025年5月

お客様各位

検査改善のための継続的な取り組みの一環として、IgGフードMAP検査のレポートを改善しましたことをここに報告します。

改善内容は下記の通りです：

- **更新された参照範囲**：参照範囲は、79,000の多様なグローバルサンプルデータを利用して更新され、多様な国際的な食生活や世界的な食事様式を反映しています。
- **統合されたレポート**：新しいレポートは、IgGと酵母+カンジダの結果を統合し、臨床指導のための簡素化された文書でより深い洞察を提供します。
- **新しい5段階の反応性スケール**：レポートには、患者の反応性を世界人口とより正確に比較するためのパーセンタイルベースの評価点が含まれています。
- **改訂された食事指導**：更新された指導は、食物感受性の管理をより効果的にするために、ローテーション食事療法に代わる除去食を推奨しています。

なお、アッセイと検査方法に変更はございません。引き続きxMAP®を使用しており、結果はMFIs（中央値蛍光強度）として報告されます。

本レポートに関する追加情報、解釈および適用については、医療従事者ポータルを通じて臨床相談の予約（英語のみ）をするか、以下の教育支援リソースをご覧ください：
<https://mosaicdx.com/test/igg-food-map-with-candida-yeast>

これらの検査レポートの改善が、より価値のある洞察を提供し、臨床実践をサポートすることを確信しています。Mosaic Diagnosticsへの継続的な信頼に感謝いたします。



除去食における4つの柱を確認する

[MosaicDX.com/Resource/Elimination-Diet](https://mosaicdx.com/Resource/Elimination-Diet)



医療従事者ポータルを通じて臨床相談を予約する

医療従事者専用：[MosaicDX.com/Portal](https://mosaicdx.com/Portal)



IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

検査番号#: 9900001
患者氏名: Report Sample
患者の生年月日: Mar 9, 1960
性別: F
担当医師: NO PHYSICIAN

採取時刻: Not Given
検体採取日: Dec 1, 2022
Sample Type: Dry Blood Spot
報告日: May 30, 2025

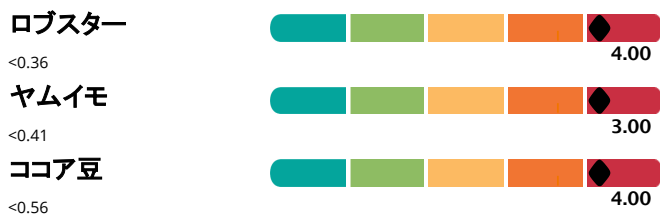
上昇した結果の概要

以下の結果は、プロフィールで検出された反応性が上昇した抗原の一覧です。すべての検査結果と各抗原のより詳細な説明は、IgG Food MAPの 結果のセクションからご覧いただけます。報告書に記載されている各値は、健康状態や環境全体との関連において考慮される必要があります、可能であれば資格のある医療従事者にご相談ください。

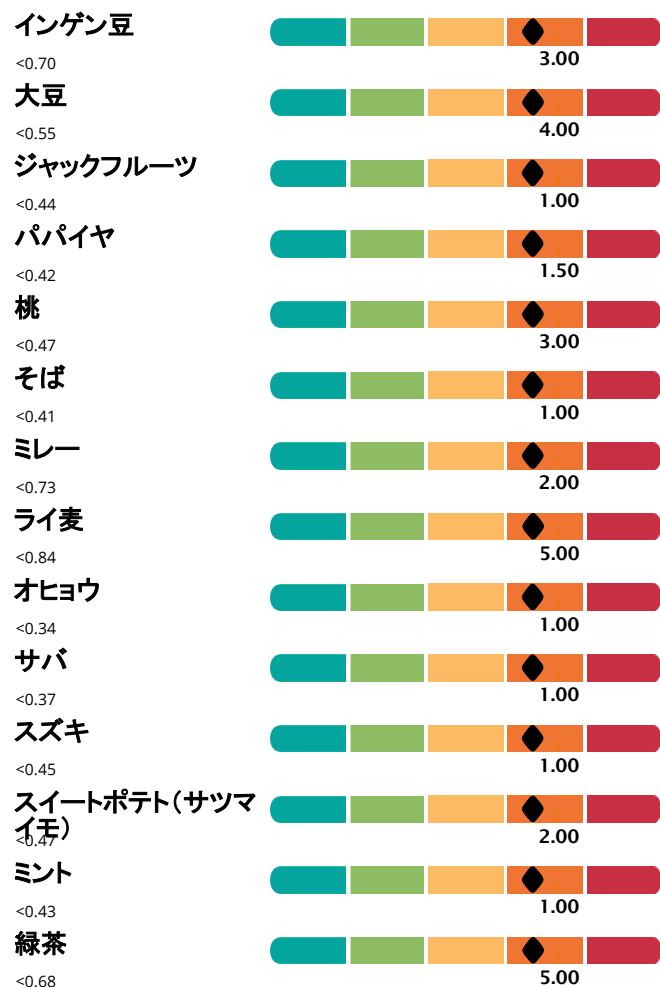
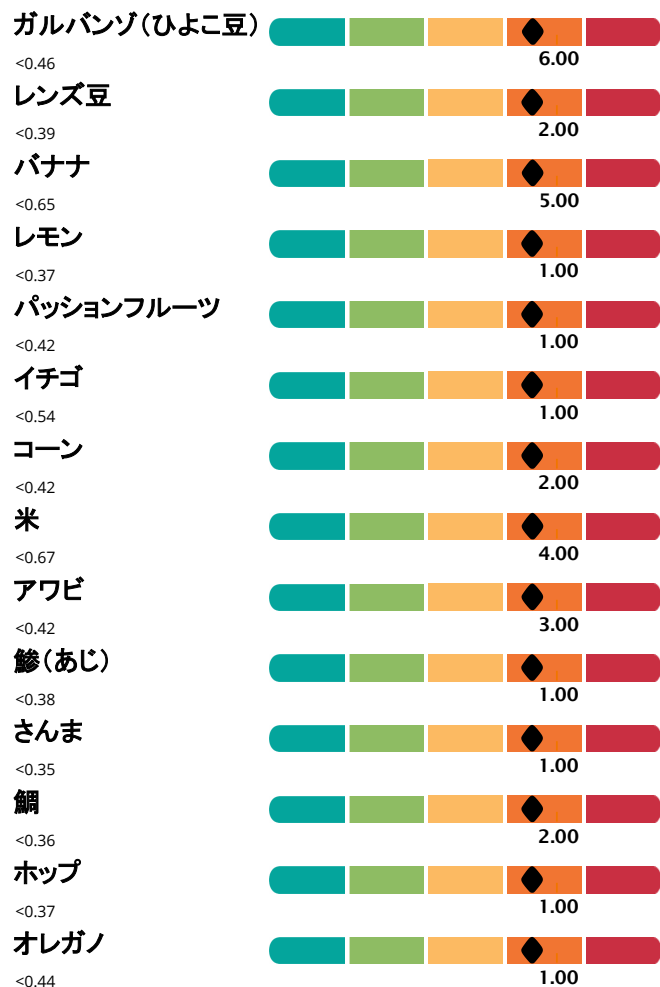
カラー キー ● 最小 (<=25TH) ● 低い (>25TH-50TH) ● 中程度 (>50TH-75TH) ● 高い (>75TH-95TH) ● 非常に高い (>95TH)

抗原名	結果	抗原名	結果
25パーセンタイル値	(患者値: MFI × 1000)	25パーセンタイル値	(患者値: MFI × 1000)
非常に高い			
CHEDARチーズ	34.00	ヨーグルト	34.00
<1.46		<3.99	
小豆(アズキ)	5.00	黒豆	6.00
<0.41		<0.35	
リマビーン	43.00	林檎	1.00
<0.41		<0.43	
アプリコット	6.00	ブルーベリー	4.00
<0.38		<0.53	
マンゴー	2.30	オレンジ	3.40
<0.35		<0.44	
梨	4.00	パイナップル	56.00
<0.40		<1.56	
プラム	4.00	ザクロ	7.00
<0.45		<0.54	
麦芽	3.00	キノア	5.00
<0.36		<0.39	
ソルガム	4.00	小麦グルテン	11.00
<0.66		<0.76	





高い





IgG Food MAP結果の活用

本報告書に含まれる情報(結果および解説を含む)は、教育目的のみに提供されており、治療の推奨として解釈されるべきではありません。必要な治療については、医療提供者に相談することをお勧めします。本報告書および解釈に関連する参考文献は、MosaicDX.com/Test/IgG-Food-MAPでご覧いただけます。

除去食は、臨床的な症状およびIgG Food MAPの結果に基づいて、特定の食品を一時的に食事から除去することで、食過敏感症を特定し対処するために設計されています。この食事法は通常2~3か月続き、「準備」「除去」「回復」「再導入」の4つの柱で構成されており、各ステップが患者を導くために不可欠です。



準備

除去食の明確な開始日と終了日を設定し、患者に症状の記録、食事の計画、十分なカロリー摂取、有機食品の選択(可能な場合)、水分補給、十分な休息を促して、除去プロセスを最適化します。



除去

IgG Food MAPの結果に基づいて、高感受性および超高感受性に分類された食品を中心に、特定の食品を除去します。結果によっては、潜在的な反応を減らし、除去プロセスを合理化するために、反応を誘発するすべての食品、または反応性の高い食品を多く含むグループ全体からすべての食品を除去するを勧める医師もいるでしょう。



回復

消化酵素、塩酸(HCl)、胆汁などの必須の消化成分を補うことで消化管の健康をサポートし、プレバイオティクスとプロバイオティクスによる腸内再定着を行い、L-グルタミン、亜鉛カルノシン、特定の植物成分などの栄養素で腸粘膜の修復を行います。



再導入

IgG Food MAPの結果に基づいて、食品を段階的に再導入します。1回に1種類の食品を導入し、症状を観察し、詳細な食事記録を用いて反応を追跡し、それに応じて食事を調整します。症状が再発しなければ、その食品は食事に戻すことができます。再導入時に症状が出た場合は、再度その食品を除去し、症状が収まらないうちに次の食品の再導入に進みます。

サポートと情報の確認方法:



除去食における4つの柱を確認する

MosaicDX.com/Resource/Elimination-Diet



医療従事者ポータルを通じて臨床相談を予約する

医療従事者専用: MosaicDX.com/Portal



IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

IgG Food MAP Results

検査方法: xMAP™

カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

乳製品

β - ラクトグロブリン

<1.78



1.00

チェダーチーズ

<1.46



34.00

ヤギの乳

<0.80



4.00

乳清(ホエイ)

<1.81



2.00

羊乳のヨーグルト

<1.10



1.00

カゼイン

<3.89



2.00

モツアレラチーズ

<1.52



2.00

ヨーグルト

<3.99



34.00

牛乳

<4.10



2.00

豆類

インゲン豆

<0.70



3.00

グリーンピース

<0.46



0.50

ネイビービーン

<0.66



1.00

リマビーン

<0.41



43.00

大豆

<0.55



4.00

緑豆

<0.43



1.00

黒豆

<0.35



6.00

ガルバンゾ(ひよこ豆)

<0.46



6.00

サヤマメ(グリーンビーン)

<0.53



0.60

ピントビーン

<0.50



1.00

レンズ豆

<0.39



2.00

小豆(アズキ)

<0.41



5.00

豆腐

<0.43



1.00





IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

続き

カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

果物

アサイベリー

<0.51



アブリコット

<0.38



ブルーベリー

<0.53



チェリー

<0.65



クランベリー

<0.42



イチジク

<0.46



グレープフルーツ

<0.41



ジャックフルーツ

<0.44



レモン

<0.37



マンゴー

<0.35



パパイヤ

<0.42



桃

<0.47



パイナップル

<1.56



ザクロ

<0.54



イチゴ

<0.54



林檎

<0.43



バナナ

<0.65



メロン

<0.41



ココナッツ

<0.45



デーツ

<0.40



ブドウ

<0.41



グアバ

<0.59



キウイ

<0.54



ライチ

<0.70



オレンジ

<0.44



パッションフルーツ

<0.42



梨

<0.40



プラム

<0.45



ラズベリー

<0.44



スイカ

<0.55



穀類

アマランス

<0.51



大麦

<0.75





カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

穀類 - 続き

そば

<0.41

グリアディン

<0.80

ミレー

<0.73

キノア

<0.39

ライ麦

<0.84

テフ

<0.49

全粒小麦

<0.88

コーン

<0.42

麦芽

<0.36

オーツ麦

<0.90

米

<0.67

ソルガム

<0.66

小麦グルテン

<0.76

魚/シーフード

アワビ

<0.42

バス

<0.34

タラ

<0.38

オヒョウ

<0.34

ロブスター

<0.36

たこ

<0.67

さんま

<0.35

鯛

<0.36

アンチョビ

<0.34

カツオ

<0.48

カニ

<0.39

鰯(あじ)

<0.38

牡蠣(カキ)

<0.47

サバ

<0.37

スズキ

<0.45

サーモン

<0.36





IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

続き

カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

魚/シーフード - 続き

イワシ

<0.41

0.60

ホタテ貝

<0.37

エビ

<0.40

<DL

あさり

<0.37

<DL

いか

<0.49

<DL

ティラピア

<0.40

<DL

マス

<0.34

<DL

マグロ

<0.39

<DL

肉/鶏

牛肉

<0.33

<DL

鶏肉

<0.34

<DL

アヒル

<0.34

<DL

卵白

<3.55

<DL

卵黄

<1.04

<DL

ガチョウ

<0.35

<DL

子羊

<0.34

<DL

豚肉

<0.33

<DL

七面鳥(ターキー)

<0.35

<DL

ナッツ類と種

アーモンド

<0.66

<DL

ブラジルナッツ

<0.36

<DL

カシュー

<0.53

<DL

栗(くり)

<0.72

<DL

チアシード

<0.61

<DL

亜麻仁

<0.50

<DL

ヘーゼルナッツ

<0.57

<DL

麻(ヘンプ)の実

<0.39

<DL

マカデミアナッツ

<0.39

<DL

落花生(ピーナッツ)

<0.68

<DL





カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

ナッツ類と種 - 続き

ペカン

<0.54



ピスタチオ

<0.50



胡麻(ごま)

<1.13



くるみ

<0.67



松の実

<0.36



かぼちゃの種

<0.57



ヒマワリの種

<0.44



野菜

アーティチョーク

<0.54



アボカド

<0.65



もやし

<0.85



ピーマン/パプリカ

<0.57



ブロッコリ

<0.60



ごぼう

<0.61



にんじん

<0.79



セロリ

<0.52



きゅうり

<0.44



えのき茸

<0.96



ケール

<0.50



レタス

<0.53



アスパラガス

<0.65



たけのこ

<0.41



ビート

<0.76



ゴーヤ

<0.44



芽キャベツ

<0.62



キャベツ

<0.54



カリフラワー

<0.44



唐辛子

<0.83



茄子

<0.54



ニンニク

<0.56



リーキ(西洋ネギ)

<0.45



レンコン

<0.73





カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値: MFI × 1000)

野菜 - 続き

白菜

<0.63



玉ねぎ

<1.68



じゃがいも

<0.50



だいこん(ラディッシュ)

<0.64



海苔のり

<0.65



しいたけ

<0.60



スイートポテト(サツマイモ)

<0.47



ヤムイモ

<0.41



ユッカ

<0.73



グリーンオリーブ

<0.34



ポルタベッタ(キノコ類)

<0.56



かぼちゃ

<0.41



海藻昆布

<0.43



わかめ

<0.65



ほうれん草

<0.41



トマト

<0.51



イエロースカッシュ

<0.52



ズッキーニ

<0.44



ハーブやスパイス

バジル

<0.57



黒コショウ

<1.36



コリアンダー

<0.75



クローブ

<0.54



カレーパウダー

<0.70



ショウガ

<1.54



ミント

<0.43



ベイリーフ

<0.44



カイエンペッパー

<0.66



シナモン

<0.66



クミン

<1.81



ディル

<0.69



ホップ

<0.37



味噌

<1.62





カラー キー

最小

(<=25TH)

低い

(>25TH-50TH)

中程度

(>50TH-75TH)

高い

(>75TH-95TH)

非常に高い

(>95TH)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値:MFI × 1000)

抗原名

25パーセンタイル値

結果

(患者値:MFI × 1000)

ハーブやスパイス - 続き

マスタードシード

<0.80



甘唐辛子

<0.63



セージ

<0.59



タイム

<0.51



バニラビーン

<0.95



オレガノ

<0.44



ローズマリー

<0.47



タラゴン

<0.85



ターメリック

<0.64



その他

ブロメライン

<0.87



ココア豆

<0.56



緑茶

<0.68



肉糊(トランスグルタ
ミナーゼ)

<0.56



酵母菌

<1.12



砂糖

<0.43



コーヒー

<0.41



はちみつ

<0.66



ウーロン茶

<0.71



カンジダ・アルビカン
ス

<4.78



結果に関するコメント

IgG Food MAPは、190種類の食品とカンジダ・アルビカンスおよびサッカロマイセス・セレビシエ (*Saccharomyces cerevisiae*) に対するIgG免疫反応性を評価するために、食品由来の抗原を使用しています。患者の血清または乾燥血液スポット(DBS)サンプルに、190種類の食品それぞれから抽出したタンパク質が導入されます。検査報告書には、それらの特定の食品タンパク質に対するIgG抗体のレベルが示され、食品抗原と患者のIgG抗体との間に食品特異的結合が生じた場合、その結果は反応性スケールとの関係で、最小、低い、中程度、高い、または非常に高いとしてグラフ上に表示されます。

IgG Food MAPの結果を用い除去食または排除食を構築する: IgG反応性食品に対する症候性反応は、特定の食品と関連付けることが困難です。反応性食品の一部または全部を除去する食事療法は症状を改善する可能性があります、完全除去食や要素別食事療法ほど難しいものではありません。食事から反応性食物を除去する際には、消化、皮膚の状態、エネルギーレベル、気分、痛みのレベルなどの変化を観察することが有用です。

除去食は症状の軽減や除去に役立ちますが、除去食の計画には、カロリー、マクロおよびミクロ栄養素の十分な摂取を含める必要があります。

この検査はIgGのみを評価するものです。IgEアレルギーを評価するものではありません。IgEアレルギーが疑われる場合は、特異的IgE検査が推奨されます。患者がIgEアレルギーを有する場合、IgG値に関係なく、その物質を食事から除去すべきでしょう。

IgGおよび食事介入に関する追加情報および参考文献については、MosaicDX.com/Test/IgG-Food-MAPをご覧ください。

IgG Food MAP の概要

IgG Food MAPとは？なぜ食物過敏症を検査するのか？

Mosaic DiagnosticsのIgG Food MAPは、血清または乾燥血液スポット(DBS)を使用して、190種類の食品に加え、Candida albicansおよびSaccharomyces cerevisiaeに対するIgG反応性を評価する検査です。

なぜ食物過敏症を検査するのか？

IgG食物過敏症検査は、炎症反応を引き起こす可能性のある食品を特定するための簡単かつ効果的な方法です。提案される個別のローテーション／除去食は、一般的なアレルギー／過敏症の原因となるすべての食品を除去するよりも、簡便で実践しやすいアプローチを提供します。特定された食物過敏症に対処することは、慢性的な健康問題の原因となっていることが多いため、身体の治癒や原因不明の症状の緩和にとって重要です。

食物アレルギーと食物過敏症の違いは？

「食物アレルギー」と「食物過敏症」という言葉はしばしば同義で使われますが、実際には異なるものです。食物アレルギーは、特定の抗原に対してIgE抗体が産生される免疫反応によるものです。IgE媒介性反応は即時型(即時型過敏症またはI型過敏症)であり、軽度(例:じんましん、かゆみ、消化不良)から重度(例:口腔粘膜の腫れ)まで、さらには命に関わるアナフィラキシーまでさまざまな症状を引き起こす可能性があります。

食物過敏症は、特定の食品によって引き起こされるさまざまな症状を指し、通常はそれほど深刻ではなく、生命に関わるものでもありません。一般的な症状としては、頭痛、消化不良、皮膚発疹、倦怠感などがあります。食物過敏症が発生する一つの提案されたメカニズムは、特定の食品に対するIgG抗体の産生であり、これは検査で評価されることがあります。

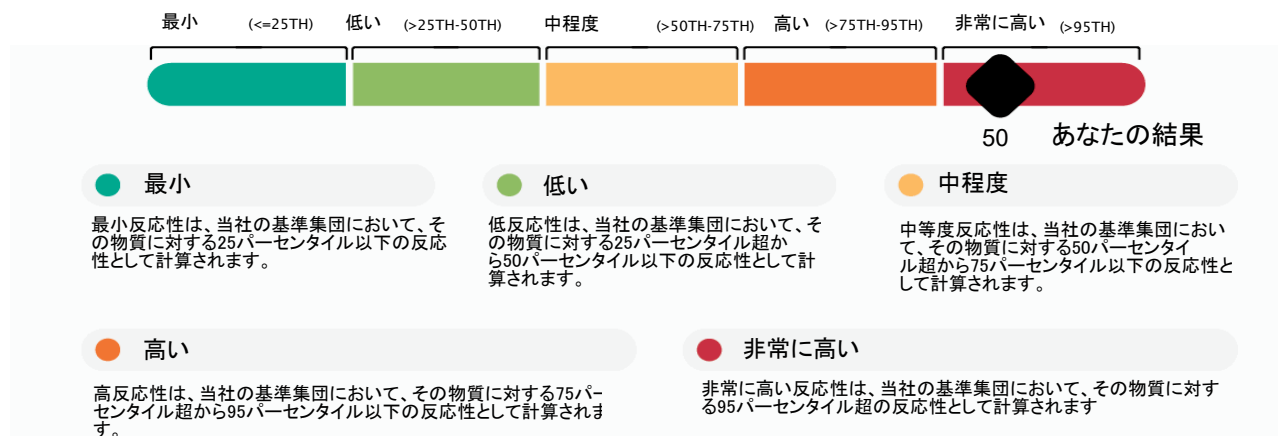
最後に、「食物不耐症」という用語は、特定の食品成分の消化または代謝が困難であることに起因する症状(吐き気、腹部膨満感、ガス、または下痢など)を表すために、臨床的にも使用されています。食物不耐症の代表的な例には、ラクターゼ酵素欠乏による乳糖不耐症、果糖の吸収障害による果糖不耐症、ヒスタミンや亜硫酸塩などの食品添加物・保存料に対する反応などがあります。

検査プラットフォーム

MosaicDXでは、xMAP™ ELISA技術を使用しています。この技術により、大量の検体を必要とせずにより多くの情報が得られ、従来のELISA検査よりも感度と特異性が向上し、読み取り時間が短縮され、プラスチック廃棄物の削減にもつながります。

基準範囲の説明と図示

私たちは、広範な世界人口を代表する79,000件のサンプルを分析し、定量的な反応を示すものから新しい基準範囲を設定しました。＜DLの結果は、検出限界未満の結果を意味します。基準範囲は定期的に更新されます。



反応性のまとめ

非常に高い

チェダーチーズ	ヨーグルト	小豆(アズキ)	黒豆
リマビーン	林檎	アプリコット	ブルーベリー
マンゴー	オレンジ	梨	パイナップル
プラム	ザクロ	麦芽	キノア
ソルガム	小麦グルテン	アンチョビ	ロブスター
牡蠣(カキ)	ヤムイモ	砂糖	ココア豆
コーヒー			

高い

ガルバンゾ(ひよこ豆)	インゲン豆	レンズ豆	大豆
バナナ	ジャックフルーツ	レモン	パパイア
パッションフルーツ	桃	イチゴ	そば
コーン	ミレー	米	ライ麦
アワビ	オヒョウ	鰯(あじ)	サバ
さんま	スズキ	鯛	スイートポテト(サツマイモ)
ホップ	ミント	オレガノ	緑茶

中程度

ヤギの乳	緑豆	ピントビーン	豆腐
アサイベリー	イチジク	グレープフルーツ	グアバ
キウイ	ライチ	ラズベリー	スイカ
テフ	たこ	サーモン	バジル
甘唐辛子	セージ	プロメライン	ウーロン茶

低い

モツアレラチーズ	乳清(ホエイ)	サヤマメ(グリーンビーン)	グリーンピース
ネイビービーン	メロン	グリアディン	オーツ麦
全粒小麦	イワシ	わかめ	マスタードシード
タラゴン			



IgG Food MAP

WITH CANDIDA + YEAST

Sean Agger PhD, MS, MBA, DABCC, DABMM, Lab Director | CLIA 17D0919496
Mosaic Diagnostics | 9221 Quivira Road, Overland Park, KS 66215
MosaicDX.com | © 2025 Mosaic Diagnostics

この検査は、Mosaic Diagnostic Laboratoryによって開発および性能が評価されています。
本検査は、米国食品医薬品局 (FDA) による承認または認可を受けていません。

